

# 名護屋城跡出土天正十八年銘文字瓦

分野 歴史

地域 鎮西

◎地図・写真・統計資料など

## ■名護屋城跡出土天正十八年銘文字瓦

(なごやじょうあとしゅつどてんしょうじゅうはちねんめいもじかわら)

名護屋城跡の保存整備事業に伴う発掘調査（平成6年度）の際、水手曲輪西側の塀跡付近で、廃城時に破却された石垣の崩落石材と土砂に混じった状態で出土した。瓦の種類は丸瓦で、一部欠損している。瓦の大きさは、残存長26.8cm、幅15.6cm、厚さ約2.4cmである。

瓦の表面に「天正十八年/四天王侍住人藤原朝臣美濃？ /住村与介 /五月吉日 吉？」の銘文が施されている。銘文については、年号・住所・人名しか記されていないが、その出土状況から考えると、水手曲輪内の建物建立にかかわるものと思われる。

この天正18年銘文字瓦は、従来から考えられていた築城の時期（天正19年）を1年余り遡ることになり、名護屋城の築城開始時期の問題にまで波及するものである。また、築城に際しての瓦工人の関わり方を検討する上でも貴重な資料となる。

平成21年4月1日 県重要文化財（考古資料）指定  
佐賀県立名護屋城博物館（鎮西町名護屋1931番地3）



名護屋城跡出土天正十八年銘文字瓦

（『佐賀県の文化財』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『佐賀県の文化財』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)